

[カンショ]

1. 作付の概況

2014年度の全国の作付面積は38,000ha, このうち九州は19,100ha, 沖縄は263haであった。前年度に比べ、全国では600haの減、九州では200haの減であった。九州・沖縄においては、前年度比で減少あるいは横ばいの県が多いが、大分、宮崎、沖縄の各県では作付面積が増加し前年比102~104%となった。全国の10a当たり収量は2,330kgで、前年産との対比で5%下回った。これは、鹿児島県において6月から9月までの日照不足などの影響によりいもの肥大が抑制されたためである。収穫量は886,500tで、前年産に比べて55,800t減少した(同6%減)。

2. 作柄の概況

鹿児島県では、生育期間を通じて平均気温はほぼ平年より低く推移し、6~9月は平年比10以上低かった。降水量は、4月は少なめであったが、6~9月は多かった。日照時間も4,5月は平年並みから多く推移したが、6~9月は少なく、特に8月で少なかった。このため、無マルチ標準栽培、黒ポリマルチ早掘栽培とも、収量は平年よりやや低かった。本年の鹿児島県の10a当たり収量は2,510kgで、前年産を8%下回った。また、収穫量は336,300tで、前年に比べて37,700t(10%)下回った。

宮崎県では、生育期間を通じて平均気温はほぼ平年並みであったが、6月下旬~7月上旬および9月下旬はやや低めに推移し、積算平均気温はほぼ平年並みであった。降水量は平年より多く、6~8月にかけてはかなり多かった。日照時間は7月下旬を除いては、平年より少なく推移し、積算では平年よりやや下回った。このため、地上部の生育やいもの肥大は晩植栽培を除いてはほぼ平年並みであった。晩植栽培では平年に比べ上いも個数はやや多かったが、上いも1個重が劣り平年比70~85%の収量となった。宮崎県の10a当たり収量は2,620kgで、前年産を4%下回った。収穫量は94,100tで、前年に比べて200t(0%)増加した。

(九州沖縄農業研究センター畑作研究領域 高畑 康浩)

2014年度カンショ作付面積と収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較					
				作付面積		10a当たり 収量		収穫量	
				対差	対比	対比	対差	対比	
(ha)	(kg)	(t)	(ha)	(%)	(%)	(t)	(%)		
全国	38,000	2,330	886,500	△ 600	98	95	△ 55,800	94	
九州	19,100	2,480	473,500	△ 200	99	-	-	-	
福岡	153	1,400	2,140	△ 1	99	-	-	-	
佐賀	99	1,880	1,860	△ 2	98	-	-	-	
長崎	411	1,490	6,120	△ 1	100	-	-	-	
熊本	1,100	2,270	25,000	△ 40	96	102	△ 400	98	
大分	354	2,260	8,000	8	102	-	-	-	
宮崎	3,590	2,620	94,100	150	104	96	200	100	
鹿児島	13,400	2,510	336,300	△ 300	98	92	△ 37,700	90	
沖縄	263	1,830	4,810	11	104	-	-	-	

注)平成26年産かんしょの作付面積及び収穫量(農林水産省大臣官房統計部 平成27年2月10日公表)に基づいて作成